

## ごろごろ様のふんどし



表紙 がんこおやし

vol. **105** November 2024

### contents 目次

- 05 YOKOGAO 拝見
- 05 野菜歳時記
- 06 ランチ情報
- 10 おせち特集 2025
- 13 ショッピング情報
- 14 中心街で Art を楽しもう
- 18 冬のイベント情報
- 20 プレゼント
- 21 ビューティー & ヘルシー情報
- 22 タウンウォッチ
- 24 忘新年会情報
- 34 食育エッセイ
- 35 はちのへ TAKEOUT Gourmet
- 38 クーポン

### ホームページ公開中

パソコン  
<http://www.webwell.jp>  
ケイタイ  
<http://www.webwell.jp/mobile/>



昔々、大昔のことだずもな。ある天気の良い日に、雲の上のごろごろ様は、ふんどしはずして「ジャブラジャブラ」と洗濯していたず。それから長いふんどしを雲の上に広げて干したずもな。そして、ふんどし乾くまでとごろごろ様は、裸けつつのままごろつと横になったず。ところが、そのうちにぐつすり眠ってしまったず。しばらくしたら風こが「そよらそよら」と吹いて来たずもな。そしたら、ふんどしの端つこが風に吹かれて「ひらりひらり」と雲の下さ落ちて行つたず。

雲の下では百姓達が村総出で稲刈りのまつ最中だつたず。目ざとい童子が「お父う、空から白い物が落ちて来たよ」つたず。「何んぞ？」とお父うが空を見ると、白くて、細長い物が「ふわふわわり」と揺れながら落ちてきたず。お父うが棹でからめ取つて見ると、絹のように柔らかい白い布だつたず。

「何んだ？何んだ？」と集まつて来たずもな。年寄りじ様が「それあきつと雷さまのふんどしだ」と云つたず。さあ大変、「ご利益あるかも」と、わいわい騒ぎながら、皆で「そろりそろり」と白いふんどしを引張つたず。

そんな騒ぎに目覚めたごろごろ様が雲の下を見ると、何んと自分のふんどしを「わいわい」と引張っているではないか。こりや大変とごろごろ様は、ふんどしを雲の上に引っ張り上げようとしたず。したども力が出ねがったずもな。なんと、ごろごろ様は裸けつつでふんどし付けていたながつたすけに力が湧き出ないのだつたず。



挿絵/久慈彩華

「仕方がない、人間が触れたふんどしは人間にくれてやる」と、ごろごろ様は「じよつきじよつき」と、ふんどしを鉄で切り落としたず。そしたら、下では人間共が「どど、どど」と重なつて倒れたずもな。

「よし、驚かせてやれ」と、大きな声で「ごろごろいっぱい鳴れ鳴れ、いなすまびかぴか光れ」と叫んだず。

ところが、雨は「パラパラ」、鳴り物は「ころころ」、いなすまは光らなかつたず。なんと、ごろごろ様は切り残しのふんどしを付けていたので、いつもの大力が出なかつたのだず。

やっぱり、雷様のふんどしは力のみなもどつたのだず。

こうして、うっかり眠つてしまつて、ふんどしを下界に落としたごろごろ様は、親方にうんと怒られ、改めてふんどしに力を貯える修行をすることになつたず。

どつとはれ